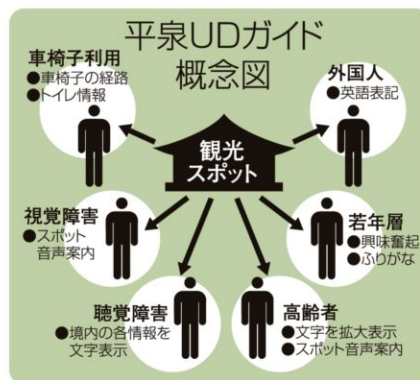


■高齢者や外国人にもわかりやすく

岩手県立大学「平泉UDガイド」プロジェクトでは、平成20(2008)年度の世界遺産登録を想定して、ユニバーサルデザイン(UD)^{*}の考え方に基づいた次世代観光情報システムの研究開発を行っています。

これは、登録後に増加が予想される高齢者、障害者、子ども、外国人を含む多くの観光客の方々に、携帯電話等の情報通信技術によって平泉の魅力を効果的に伝えていくことを目指したものです。

早期の実用化を目指した社会実験では、多くの参加者から好評をいただいています。



携帯電話を活用したサービス

早期実用化を目指す社会実験



ソフトウェア情報学部・情報システムコース・社会情報システム学講座(阿部昭博研究室)では、まちづくり、福祉、文化継承、観光振興など、個人や単一の集団・組織では解決できない社会的課題に対して、情報システムによる解決や新たなサービス創出を目指す研究を行っています。

「平泉UDガイド」プロジェクトでは、毛越寺境内の観光スポットにアクティブタグと呼ばれる小型の情報発信装置を設置し、対応する携帯電話と利用者の位置などのデータを交換、インターネットを通じてその人に適した情報が届く仕組みを構築しました。あらかじめ携帯電話に利用者の身体特性(車いす、オストメイトなど)や、使用言語(日本語や英語など)を入力して設定すると、車いす利用者専用トイレの場所、音声案内など、個々に応じた情報を提供することができます。



社会実験で手ごたえを実感。様々な人を支援できるシステムを作りたい

ソフトウェア情報学部・情報システムコース・社会情報システム学講座 佐藤 歩

授業でICタグに興味を持ったのがきっかけで、3年生と4年生の時に社会実験に参加しました。私はシステムの評価やモニター調査をもとにしたUDの視点からのシステム設計、音声案内などの開発を担当しましたが、大学生活ではあまり話す機会のない障害者や企業の方などと交流することができ、新しい発見がありました。社会実験では受信の感度や音声案内の利点、雨天時の操作など実際に実験してみないとわからないこともあり、実験することが重要であると再確認しました。自分の担当した機能が喜んでもらえるのは嬉しいし、今後、このシステムが様々な人を支援できたいと思います。

*UD(ユニバーサルデザイン)／年齢や性別、障害の有無などに関わらず、できる限り、すべての人が利用できるように製品、建物、空間、情報等をデザインすること。